卒業研究

中間発表会

研究を伝え、対話から次の一歩へ

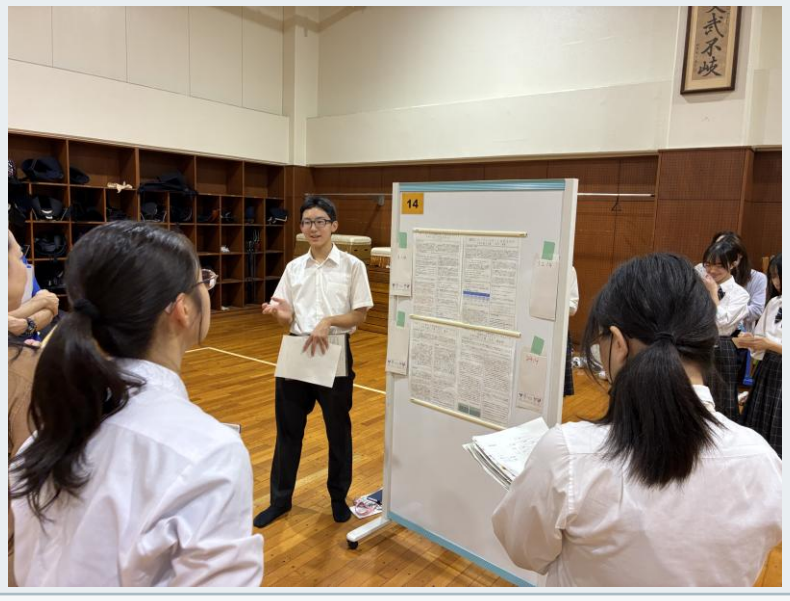
開催日：2026年10月10日 ｜ 会場：教室、柔道場、剣道場

1 発表会の概要

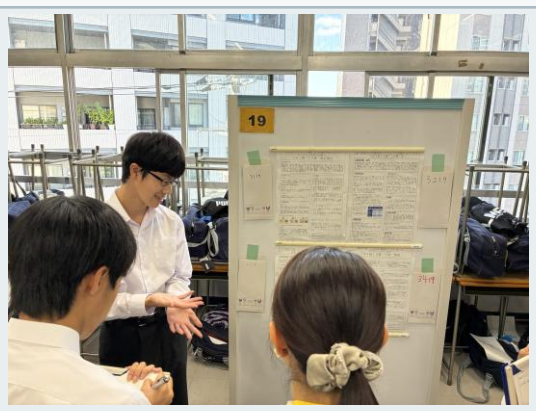
中学3年生が、卒業研究の中間発表会を行いました。生徒たちは1年次から「志学」（両国の探究学習＋キャリア教育）で探究のステップを学んできました。3年生では探究の4段階：課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・発表を1人で行います。

今回の中間発表では、これまでの調査内容や今後の研究計画をポスターにまとめ、3年生の仲間や保護者に向けて発表しました。質問や助言を受け、自分の研究を見つめ直す機会となりました。卒業研究では「自分のテーマについての『博士』になること」が大切です。文献調査やフィールドワークが順調に進んだ生徒は、自信をもち、嬉々として語っていました。『博士』が生まれ始めた気配にワクワクします。2月の最終発表会では、さらに『博士』が増えていることを期待します。うまく研究が進まない生徒も、そこで折れたり、テーマを諦めたりすることなく、工夫して再チャレンジし、最後までやりきる面白さを体感してほしいと思います。

2 当日の様子











3 今、卒研で困っていることは？（当日のワークシートより）＆研究部からの回答！

「**フィールドワークをやっていないので情報が足りません**」
→ぜひこれから計画して実施してほしいです。ただ、まずは「フィールドワーク」のハードルを下げてはどうでしょうか。「会うべき人に会う」「行くべき場所に行く」ことと捉えましょう。テーマに関係がある教科の先生に相談することも、大事な一歩ですよ。机上でタブレットに向かう以外のことを試してみましょう。外部への連絡やアポ取りなど、サポートしますので相談してくださいね！

「**良い参考文献がありません**」
→本当に充分探しましたか？昨年度、先輩の最終発表会を参観した際、講師の方がこうおっしゃっていましたね。「どんなテーマにも論文はある」。「無い」と言い切ることは難しいです。探し方が難しい場合もあるので、まずは学校図書館の司書さんに相談してみてはどうでしょうか。論文や統計データの探し方も1年生の時に学習しましたが、また授業で復習しますのでトライしてくださいね。それでも本当に無い場合は、リサーチクエスチョンの文言を少し変更するのも一つの方法です。

「**上手くいかないので、テーマを変えようか迷っています**」
→リサーチクエスチョンの文言を一部変えるのは構いません。テーマをガラッと変えることはしないでください。上手くいかないことに対して挫けず、自分なりに工夫しながら最後まで走りぬく経験をすることが、卒研をやる意義だと研究部では考えています。リサーチクエスチョンの変え方や、上手くいかない部分のほぐし方について、一緒に考えていきましょう。上手くいかなかった部分について整理・分析することも、立派な研究の一部ですよ。

4 今後の流れ

助言を整理 › 研究計画を見直す › 追加調査・フィールドワーク › 論文執筆 › 大学教授による論文の書き方講演会
同窓会による論文添削指導 › 最終ポスター作成 › **最終発表会**